

公益社団法人 私立大学情報教育協会
栄養学・薬学・医学・歯学・看護学・リハビリテーション学グループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 開催要項
オンライン開催

1. 開催趣旨

変動が激しく不確実で、予測できない複雑な問題を抱える現代社会では、これまでの常識が通用しなくなるとも言われており、学生には新しい物事や変化そのものに適応する能力が求められています。

それには、教育のDX化を後戻りさせない中で、学生一人ひとりの能力を伸長する個別最適な授業と、対面授業と遠隔授業を効果的に組み合わせた問題発見・課題解決型教育(PBL)の推進普及が急がれます。

そこで本協会では、大学教員を中心とした分野連携によるアクティブ・ラーニングの対話集会を通じて、昨年度議論したテーマ(「学修者本位の授業実現」、「問題発見・課題解決型(PBL)授業の理解促進と推進・普及」、「教員の意識啓発の促進」、「生成AIの取扱い」)を踏まえて、ICT(情報通信技術)や生成AIなどを活用した学びの質向上に向け、参加教員によるグループ討議を通じて意見交流を行い、問題意識の定着と改善策又は解決策を整理して、各大学における学びの質的転換に資することを目指しております。

2. プログラム

(1) 開催趣旨の説明

(2) 話題提供：意見交流のテーマに関連する事例の紹介(但し、「教員の意識啓発の促進」を除く)

※ 多方向同時型デモンストレーション動画教材活用による反転授業の学習効果
佛教大学 保健医療技術学部看護学科講師 岡田 朱民氏

※ グループワークと相互評価を用いた看護過程授業における学生の学び
朝日大学 保健医療学部看護学科准教授 清水 八恵子氏

※ 栄養と口腔歯科の連携を導く課題解決型学習(PBL)
札幌保健医療大学 保健医療学部栄養学科教授 川口 美喜子氏

※ アクティブラーニングにおける生成AIの活用と授業デザイン
東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構特任准教授
中澤 明子氏

(3) 意見交流(グループ別討議の後、全体討議を行います)

① 学修者本位の授業実現

* 「学修者本位の授業を効果的に実現するにはどうすればいいのか」、LMS等で理解度・成長度を把握して個別に学修指導する最適化の取組みについて、課題を整理して改善策、解決策の方向性を見出します。また、反転授業の取組みについて、課題を整理し、改善策又は解決策を例示します。

② 問題発見・課題解決型(PBL)授業の理解促進と推進・普及

* 「問題発見・課題解決型PBL授業の重要性を共有し、推進・普及していくにはどうしたらいいのか」、課題を整理し、改善策又は解決策の方向性を見出します。

③ 教員の意識啓発の促進

* 上記①、②の授業改善を組織的に進める意識啓発の対策として、学長・学部長によるガバナンスの下で教員全員が参加するFDの仕組みを構想します。また、多くの教員に関心を誘発する方法として、FDに学生が参加する仕組みの課題と期待される効果を整理します。

④ 生成AI(ChatGPTなど)の取扱い

* 学生が社会で生成AIを使いこなすことができるよう、大学としての課題と考えられる方策を整理します。また、生成AI使用を前提とした学修評価の課題と考えられる方策を整理します。

(4) 総括

実現可能性の観点から4テーマの改善策又は解決策を整理し、提示します。その上で学びの質的転換に挑む覚悟などを共有します。

3. **参加対象者**：私立の大学・短期大学教員

4. **開催日時**：令和7年1月25日(土) PM1:00~4:30

5. **会場**：オンライン(Zoom 使用)による開催とします。なお、申込者には、対話集会視聴方法等について、申込書に記入いただいたアドレスに1月23日(木)にメールでお知らせします。

6. **定員**：50名 (先着順で受け付けます)

7. **参加費**：無料

8. **資料の配信**

話題提供の「発表資料」を1月25日の午後0時30分に以下のページに掲載します。

<https://www.juce.jp/senmon/active/>

申込者は、受付後お知らせする「参加IDとパスワード」を入力することでご覧になれます。

9. **参加申込**

別紙申込書に必要事項を記入の上、メール添付又はFAXにて**令和7年1月20日(月)までに**申し込み下さい。なお、申込締め切り後でも受け付けることがありますので、事務局にお問い合わせ下さい。

メール送信先：info@juce.jp FAX送信先：03-3261-5473 TEL：03-3261-2798

10. **その他**

1月25日(土)終了後、参加者には1月28日(火)から29日(水)の2日間、対話集会の開始から終了までの録画を閲覧できるようにします。また、意見交換による改善策、解決策等の整理は後日、改めて文章で本協会のWebサイトに掲載する予定にしています。